

## 関門海峡のロマン

かつてはロマンチックなムードにそこはかかない旅情を漂わせ、演歌にも唄われて旅人の胸をぎゅっと締め付けたノスタルジックな「海峡」も、今や海峡を跨ぐ巨大な橋の建設や海底トンネル貫通のあおりを受けて旅情は幻想と化し、あまり話題にも上らなくなった。

そんな忘れ去られた風景の一コマに、その昔港町として賑わった関門海峡を結ぶ、二つの都市、下関と門司のレトロぶりが近年クローズアップされるようになった。

クジラの町として 2002 年には国際捕鯨委員会が開かれ、ニュータイプの水族館「海響館」や、活気溢れる魚市場「カモンワーフ」、安徳天皇を祀る赤間神宮などが注目される下関と、その対岸の「バナナの叩き売り」発祥の地・門司が門司港レトロとして、少しずつ往時の光を取り戻しつつあるのは「懐メロ派」には嬉しいニュースである。かつて両港湾とも貿易船の出入りでは横浜、神戸と肩を並べた時代もあった。その風情は「鉄道唱歌」25 番から 30 番にかけてたっぷり歌われているほどである。

その二つの都市のうち、本州の下関が西に、九州の門司が東に位置するのも地形の綾とはいえ、あれっ？と錯覚に陥らせて面白い。その両都市間の鉄道と車の主たる交通要路としては、今日関門鉄道トンネル、新関門トンネル、関門国道トンネル、関門橋の4つのルートが普く知られている。

しかし、この他にも 10 分足らずで両港間を渡れる観光船が頻繁に運航されている。更に、門司と下関間を歩いてみたい？と思う向きには、海底の歩行者道「関門トンネル人道」を利用することもできる。マラソン大好き人間の間寛平も走った長さ 780m の歩道を、徒歩 15 分で山口・福岡県境を越えて行き着ける。両端にはエレベーターが設置され、自転車でも県境を越えることができる。

幸い地元の友人の案内を得て、鉄道、車、船、足を使い関門海峡を越える6つの方法をすべて征服した。ヤッター！ とりあえず、ご満悦…。

ところが、もうひとつだけ海峡を渡る魅力的でアドベンチャラスなルートが目の前に残されていた。

何とそれは目と鼻の先僅か 1km 足らずの海峡を泳いで渡ってみることだった。いつかこれに挑戦をと思いきや、落ち行く平家が愁嘆の場を演じた大舞台・壇ノ浦を横目に泳ぎきろうとは傲慢にして浅はかな。加えて速い潮流に干満の差が激しい海峡を泳ぐとは危険この上なく、とっくの昔に「遊泳厳禁」のお触れが出されていた。あ～残念、無念…。

(近藤節夫)